

テレパシー

伊藤貴晴 作

【登場人物】

少女
王様
狐

【1】夜

森の中。テーブルと椅子がある。
王様がイスに座っている。少女が現れる。コンビニの袋を提げている。王様を見つけてやや驚く。

王様

ハロー

少女

ハロー

王様

いい夜だ

少女

誰？

王様

私か？

少女

ええ

王様

私は王様だ

少女

王様？

王様

そうだ

少女

何をしているの？

王様

別に何も。今夜は星がよく見える

間。

王様

時に少女よ

少女

え？

王様

君は何をしているのだ

少女

怪しい光を見たから、それを探しに来たの

王様

怪しい光？

少女

ピカピカ光りながら空を飛んでた。でもその光がだんだん弱くなってきて、

王様

私の家の裏山に落ちたの

少女

なるほど

王様

何か知ってるの？

少女

私を知っているのか知っていないのか答える前に、君の意見を聞こうじゃ

王様

ないか

少女

私の？

王様

君はどう思うのだ？ その光について

少女

見間違いでなければ

王様

見間違いでなければ

少女

UFO

王様

UFO？

少女

そう

王様

UFOとは何だ？

少女

UFOを知らないの？

王様

ああ、知らない

少女

未確認飛行物体だよ

王様

未確認飛行物体

少女

宇宙人の乗り物だよ、多分

王様

宇宙人

少女

でも宇宙人なんているわけない

王様

いや、そうとも言い切れないぞ

少女

え？

王様

なるほど。いや、まだまだ勉強不足だが、ようやく事態が把握できてきた。

少女

そうか、宇宙に住むから宇宙人か。確かにそう言えなくもない

王様

何を言ってるの？

少女

だとしたら、さっきの言葉、未確認……

王様

未確認飛行物体

少女

そう、未確認飛行物体。宇宙人という言い回しは間違っていない。この宇宙に住む者全てが宇宙人だ。だが、未確認飛行物体というのはよくない

王様

どうして？

少女

だってそうだろう。未確認とは「未だ確認せず」だ。君が光を確認した時点で、それはもうUFOじゃない。ただの宇宙船だ

王様

宇宙船？

少女

さっきの質問の答えだ。私はその宇宙船についてよく知っている。私がそ

王様

れに乗ってきたのだからな

少女

あなたが？

王様

そうだ

少女

少女、王様を怪訝そうにのぞき込む。

王様 釈然としないようだな

少女 そうだね

王様 ずいぶん未開の地に降り立ってしまったようだ。まさか他の惑星との交流が全くないとは

少女 そりや、宇宙人から見れば、文明は遅れてるかもしれないけど

王様 理解が早くて助かる

少女 でも、あなた、全然宇宙人に見えないよ

王様 そんなことはない

少女 だって見た目は普通だし、珍しくもないし、バカっぽいし

王様 言葉を慎みたまえ。いくら私が温厚でも限度がある。先ほどから君の態度

少女 は何だ。いい加減にしたまえ

少女 そんなこと言われても、宇宙人なんて初めて会ったんだよ。どうしたらいいの？

王様 初めに言っただろう。私は王様だ

少女 王様？

王様 王様は敬ってしかるべき対象だろう

少女 はあ

王様 君は王様に対する口のきき方も知らんのか

少女 知らん

王様 まあいい。じっくり教えてやる。ところで、それは何だ？

少女 どれ？

王様 その、持つてる白い物だ

少女 ああ、コンビニの袋だよ

王様 コンビニとは何だ？

少女 コンビニエンスストア

王様 コンビニエンスストア

少女 コンビニエンスストア

王様 そう

少女 コンビニエンスストア

王様 便利なお店だよ

少女 コンビニエンスストア

王様 もういいよ

少女 中身は何だ？

王様 夜食

王様 夜食？

少女 お腹が空いたから、買ってきたんだ。牛乳とメロンパン

王様 牛乳は分かるぞ。牛の乳だな

少女 うん

王様 そしてこれは

少女 メロンパン

王様、メロンパンを食べる。

少女 あっ！ ころー！

少女 暗くなる。

少女 明るくなると、王様と少女が椅子に座っている。

少女 お前、いい加減にしろよ

王様 すみませんでした

少女 何で食べるの？ ねえ、何で勝手に食べるの？

王様 (小声で) メロンパン……

少女 え？

王様 (小声で) 初めて見たから、ちょっと興味……

少女 聞こえない

王様 そんなに怒ることないだろ

少女 あんたがメロンパン食べなかつたらこんな怒ってないよ

王様 パン一個だろ

少女 パン一個で命を落とす人間が世の中にどれだけいると思ってるの？ 貧困

王様 に苦しむ国ではパン一個食べられなくてみんなバタバタ死んでいくんだ。

少女 スラム街の子どもはパンを盗んで捕まって路地裏で袋叩きにされて牢屋に

ぶち込まれるんだよ

王様 それは全然関係ない話のような気がするんだが

少女 私はね、メロンパンが大好きなの

王様 はい

少女 世の中のあらゆる食べ物の中でメロンパンが一番好きなの。どうして好き

王様 なのか自分でも分からないけど、とにかくメロンパンが大好きなの。分か

少女

王様

少女

る？ 分かるでしょ？

王様
分かります

少女
あなたにメロンパンの良さが分かるわけないでしょ

王様
いや、でも

少女
私がどんな思いでメロンパン買ってきたか分かる？

王様
え、分かり……ません

少女
あなた王様なんでしょ？

王様
そうです

少女
王様だったら民衆の気持ちを理解しなきゃいけないよね

王様
そうです

少女
だったら私の気持ち、理解してよ

王様
はい

少女
でね、受験勉強してたの。勉強してるとお腹空くじゃない。でも夜中に何か食べると太るでしょ。やっぱり女の子だから体重とかプロポーションとか気になるの

王様
ははん

少女
何それ？

王様
え？

少女
どういう相槌？

王様
いや、どういふと言われても

少女
私が太ることに同情してくれたの？

王様
駄だつて言いたいの？ それとも、そんなこと気にしても無

少女
いや、ダイエットなんてしなくてもいいと思うぞ

王様
そんな気休め言われてもちつとも嬉しくない。でね、どうしても我慢でき

少女
なくなつて、がんばった自分に褒美をあげたくて、牛乳とメロンパンを

王様
買いに行ったの

王様
ははん

少女
その「ははん」って言うの、やめて

王様
でもこれは癖だから

少女
そしたら空で何か光つて、裏山に落ちたから、様子を見に来たの。そして

王様
ら変な王様がテーブルに座つて、私のメロンパン食べたの

王様
はは……ん

少女
おいしかった？ メロンパン

え？ ああ

王様
これ以上おいしいものはないつてくらい、おいしかった？

少女
いや、そんなことは……なきにしもあらず

王様
私の幸せを奪った罪の重さが分かった？

少女
ああ

王様
謝つて

少女
すみませんでした

王様
食べ物の恨みは怖いよ

少女
ひとつ質問していいか？

王様
何？

少女
メロンパンっていうのはメロン味じゃないのか？

間。

少女
お前、いい加減にしろよ

王様
え？

少女
メロンパンっていうのはね、表面のビスケット生地がメロンの模様似て

王様
るからメロンパンっていうの。メロンの味なんかするわけないでしょ

少女
そうなのか

王様
あなた、そんなことも知らないで王様やつてるの？

少女
メロン味のメロンパンなんて邪道だよ？

王様
知らなかった

少女
メロンパンのなんたるかも知らないで私のメロンパン食べたの？

王様
メロンパンなめんじやないよ。謝りなさい。今すぐメロンパンに謝りなさい

少女
え？ メロンパンに？

王様
ほら

少女
すみませんでした

王様
(舌打ちをして) まあいいよ。怒ったら喉渇いちゃった

少女
ははん。何か飲むか？

王様
何かあるの？

少女
紅茶がある

王様
今日はいい。もう遅いし。また明日にする

少女
明日？

少女 メロンパン弁償してよ
王様 ああ、そうか
少女 明日、用意しといてね
王様 よし。とびきりのメロンパンをご馳走しよう
少女 ところでさ
王様 何だ？
少女 あんた、何者？
王様 私は王様だ

【2】 昼

王様と少女が椅子に座っている。

王様 どうだ？
少女 まあまあだね
王様 自信作だったんだがな
少女 まさか自分で作ると思わなかった
王様 私の宇宙船では何でも作れる。作り方が分かればメロンパンなどお茶の子
少女 さいさいだ
王様 作り方はどうやって調べたの？
少女 宇宙船にデータベースがある。私の宇宙船は優秀なのだ。常に最新の情報を
王様 キヤッチしてくれる。でなければ知らない惑星を旅することなどできな
少女 い
少女 なるほどね
王様 この惑星のことも大体理解した。地球というらしいな
少女 そうだよ
王様 発展途上だが、なかなか興味深い星だ
少女 聞きたいことがいっぱいあるんだけど
王様 言ってみろ。何でも気前良く答えよう
少女 本当に宇宙人なの？
王様 ふむ、えらく根本的な質問だな。確かにこの星以外の生態系の存在を知らない
少女 君たちにとっては信じられないかもしれないが、現に私はこうしてい

少女 るじゃないか
少女 だって、ただの変わった人にしか見えないんだもん
王様 なるほど。全くの偶然なのだが、私と君たちとの姿は非常に似通っている。
少女 ははん、よろしい。それではひとつ、私が君たちと違つるところを見せてあげよう。手を出しなさい
少女 こう？

王様は少女の手を握る。

王様 聞こえたか？
少女 「ハロー」
王様 そうだ。私は今、この手から「ハロー」という言葉を発信した。これがテレパシーだ
少女 すごい。こんなことできるの？
王様 触れていればそんなに難しいことじゃない。一般的にコミュニケーションというのは音声または文字を使って行われる。ただし今のはちよつと違つ。触覚に訴えるコミュニケーションだ
少女 触覚に訴える？
王様 声はどのようにして伝わるか知っているか？
少女 空気が振動する
王様 その通り。では、振動以外で物体を伝わっていくものは何だ？
少女 ……分からない
王様 熱だよ
少女 熱？
王様 そうだ。私は手のひらの温度をコントロールして波長を作り、君に伝えたんだ
少女 温度をコントロール…そんなことできるの？
王様 現にやってみせたではないか
少女 でも…
王様 見た目が似ていても、全く同じ生物ではないということだ
少女 そうなんだ
王様 納得したか？
少女 うん。すごいね

王様 すごいだろう

少女 でも、触らなきゃいけないの？

王様 ああ

少女 離れた相手にテレパシーは送れないの？

王様 送れないな

少女 じゃあ、あんまり意味ないね

王様 うん、意味ない

少女 大したことないね

王様 バカにするな。結構便利なんだぞ、これは

少女 どこが？

王様 声を出さないからな。内緒話に最適だ

少女 ああ、それは確かに

王様 それに、声に出すのとは違う独特の温かみがある

少女 へえ

王様 どうだ、思い知ったか

少女 違うのってそれだけ？

王様 どういうことだ？

少女 地球人と違うのは、テレパシーが使えることだけ？

王様 そうだ

少女 ふーん

王様 他に質問は？

少女 どうして地球に来たの？

王様 ははん。なかなか良い質問だ。私は旅をしているのだよ

少女 旅？

王様 そうだ

少女 どうして？

王様 ある女を捜しているんだ

少女 女？

王様 ずいぶん捜したが、まだ見つからない

少女 どういう人なの？

王様 どういう……どういう人だろう？

少女 え？ どういうこと？

王様 よく分からないんだ

少女 分からない？

王様 うん、分からない

少女 よく分からない人を捜してるの？

王様 そうだ

少女 どうして？

王様 捜さなければいけないから

少女 だから、それはどうして？

王様 捜さなければいけないからだ

少女 どういう関係なの？

王様 いや、まあ、まだ関係っていうほどでは

少女 会ったことあるの？

王様 もちろんだ。美しい女だったよ。それがあの日、突然いなくなってしまう

少女 た

ふうん

王様 そういえば、君はよく似ている

少女 え？

王様 彼女にだよ。雰囲気かな。彼女は君とどこか似ているところがあつたよ

【3】 昼

少女登場

少女 ハロー。あれ？ いないの？ 王様？

王様、狐を連れて登場

狐 痛いですが、放してください。痛いであります

王様 ハロー、少女よ。見ろ、捕まえたぞ

少女 これ、何？

王様 狐だ

少女 狐？

狐 狐です。初めまして

少女 どうしたの？
 王様 山で見つけたから捕まえた
 狐 捕まりました
 少女 これ、本当に狐？
 王様 そうだ
 少女 そうは見えないけど
 王様 なぜだ。どこからどう見ても狐じゃないか
 少女 そう？
 王様 おい、お前
 狐 は、何でありますか
 王様 お前は何だ？
 狐 狐であります
 王様 ほら、狐だろ？
 少女 何で狐が喋るの？
 王様 狐は喋るだろう
 少女 喋らないよ
 王様 でも喋ってるじゃないか
 少女 でも普通は喋らないよ
 王様 おい、狐
 狐 は、何でありますか
 王様 お前は何で喋るんだ
 狐 喋りたいからであります
 王様 喋りたいんだって
 少女 普通は喋れないでしょ
 王様 そんなことはないだろ
 少女 尻尾は？
 王様 尻尾？
 少女 尻尾はないの？
 王様 おい、尻尾はどうした
 狐 自分に尻尾はないであります
 王様 ないんだって
 少女 狐だったらあるでしょ、尻尾
 王様 おい、お前

狐 何でありますか
 王様 尻尾を生やせ
 狐 了解であります。はっ
 間。
 狐 無理であります
 王様 馬鹿者。貴様それでも狐か
 狐 申し訳ありません
 少女 何でそんな軍隊みたいな喋り方なの？
 王様 そうだ、鳴き声を聞いたら狐だと分かるだろう。おい、鳴いてみる
 狐 コーン
 王様 ほら、狐っぽい
 少女 ぼいじゃダメでしょ
 王様 ぼいはダメなのか
 少女 だって狐じゃないじゃん
 狐 コーン
 王様 ほら、狐そっくりじゃないか
 少女 そっくりってことは狐じゃないんでしょう？
 王様 あ、そうか
 狐 コーン
 王様 うるさい、黙ってろ
 少女 申し訳ありません
 狐 それに、それ何？
 王様 それは何だ
 少女 眼鏡であります
 狐 何で眼鏡してるの？
 王様 視力が悪いからであります
 少女 視力が悪いのか
 王様 王様、狐から眼鏡を取り上げる。
 狐 ああ、何も見えない

王様、しばらく狐をいじめた後、眼鏡を返す。

王様 狐なんだから眼鏡をかけてるのが当たり前じゃないか

少女 狐は眼鏡かけないでしょ

王様 そんなことはない。ほら、いるだろう、メガネザルとか

少女 サルじゃん

王様 あ、サルか

少女 どつちかって言うとサルっぽいかな

王様 なるほど、サルか

少女 いや、でも

王様 お前はサルか？

狐 違うよ

王様 違うって

少女 うん、サルじゃないと思う

王様 サルじゃないのか？

少女 うん、サルじゃない

王様 ははん、さては貴様、サルじゃないな？

狐 だからそうやって言ってるだろ

王様 貴様、何だその口の聞き方は

狐 申し訳ありません

王様 貴様それでも軍人か

狐 申し訳ありません

王様 非国民か

少女 変なの

王様 よし、せつかく捕まえたんだ。食べよう

少女 何を？

王様 こいつを

少女 え？ 本当に？

王様 何鍋がいい？

少女 鍋なんだ

王様 狐といえど鍋だろう

少女 本当に食べるの？

王様 そうだよ。おい、お前

狐 は、何でありますか

王様 キムチ鍋でいいか？

狐 いや、辛いのは苦手であります

王様 仕方ない、辛いのはやめよう

狐 ありがとうございます

少女 ねえ、いいの？

狐 何が？

少女 鍋

狐 うん、辛くなかったら

少女 でも、食べられるんだよ

狐 うん、鍋を食べられる

少女 え、そうじゃなくて

狐 食べられないの？

少女 いや、食べるよ

狐 うん、食べるよね

少女 でも、あなたを食べるんだよ

狐 え？ 自分を？

少女 うん

狐 自分で自分を食べる？

少女 いや、そうじゃない

狐 それはちよつと難しい

少女 あなたは食べない

狐 自分は食べない

少女 ちよつと待って。一人称が自分だとすぐく分かりにくい

狐 え？ どういうこと？

少女 だから、あなたを鍋にして食べるの

狐 自分が鍋になる

少女 そう

狐 誰が食べるの？

少女 私たちが

狐 あなたたちが、自分を、食べる

少女 そう

狐 どうして？
少女 話聞いてた？
狐 聞いてなかった
王様 さあ、狐よ。覚悟はいいか？

狐、逃げる。

少女 あ、逃げた
王様 逃がすか。待て
少女 ちよつと待ってよ

王様、狐を追って退場。少女、椅子に座る。
しばしの間。
王様、狐を連れて登場。

狐 助けて
少女 本当に食べるの？
王様 もちろんだ
少女 かわいそうだよ
王様 そうか？
少女 うん
王様 おい
狐 何？
王様 お前はかわいそうか？
狐 うん
王様 そうか、かわいそうか。かわいそうに
狐 え？ それだけ？
王様 それだけだ。さ、食べよう
狐 ちよつと待ってよ
王様 何だ？
狐 僕の意見も聞いてよ
少女 あれ？ 喋り方、変わったね
狐 あ、知らない人と会うと緊張してさつきみたいな喋り方になるんだけど、

王様 普段はこんなんです
狐 言いたいことはそれだけか
王様 今のは違うよ
狐 違うのか
王様 うん
狐 嘘か
王様 え？

王様 お前、騙したな
狐 違うよ
王様 何が違うんだ

狐 僕が言いたいのはそういうことじゃなくて
王様 お前の話など聞いていない
狐 聞いてよ
王様 断る
少女 聞いてあげようよ
王様 聞こう

狐 食べないでください
王様 断る
狐 ちよつと待って

王様 待たない
狐 待って、お願いだから
王様 何だ？

狐 僕なんか食べてもおいしくないよ
王様 そんなことないだろ
狐 でも、ガリガリだし、肉ついてないし
王様 どう思う？

少女 狐でしょ？ おいしくないことはないと思うけど
王様 おいしくないことはないと思うよ
狐 あの子の方がおいしいと思うよ
王様 そうか？
狐 うん

王様 少女よ、お前はおいしいか？
少女 食べてみないと分からないけど

王様 食べてもいいか？

少女 ダメ

王様 ダメだそうだ

狐 僕の意見も聞いてよ

王様 お前の意見など聞いていない

狐 助けて

少女 ねえ、かわいそうだよ

王様 そうか？

少女 助けてあげて

狐 お願ひします

王様 耳だけ食べていいか？

狐 ダメです

王様 どこならいいんだ？

狐 どこ？ ……どこだろ？

王様 どっかあるだろ？

狐 ないよ

王様 そんなわがママが通用すると思ってるのか？

狐 ごめんなさい

少女 もういいじゃない

王様 仕方ない、許してやろう

狐 ありがとうございます

少女 君はこの山に住んでるの？

狐 そうだよ。君は？

少女 あの辺。あの辺に私の家がある

狐 近いね

少女 うん、近いよ

王様 私の家があっちの方だ。近くはないが、まあ行けないことはない

狐 あっちってどっち？

王様 あっちだ

狐 どこ？

王様 この星からでは見えない

王様 よその星なの？
そうだ

狐 よそ者か

王様 よそ者？

少女 うん、よそ者だよ

狐 何だ、よそ者か

少女 そうだよ、よそ者なんだよ

王様 何だ、この疎外感

狐 あんた、何者なの？

王様 私は王様だ

狐 ふーん

間。

王様 おい

狐 何？

王様 私は王様なんだ

狐 うん

王様 私が王様だつてことが分かったら、もっとびっくりするだろう？

狐 いや、別に

王様 びっくりするだろう

狐 そうかな？

王様 もう一度言おう。私は王様だ

狐 ふーん

王様 びっくりしろよ

狐 うわあ

間。

王様 それはびっくりしたのか？

狐 うん

王様 バカにしてるのか？

狐 うん

王様 くすぐってやる

王様、狐をくすぐる。

狐 やめて、くすぐらないで

少女 王様の星つてどんな星なの？

王様 私の星か？ そうだな、自然が豊かな、美しい星だ

少女 そうなの？ 機械がいつぱいじゃないの？

王様 もちろん科学はこの星より進歩しているが、我々は自然を大事にしている

狐 鉄腕アトムとかいないの？

王様 いないな

少女 何か珍しいものとかないの？

王様 どうだろうな

少女 タイムマシンは？

王様 ない

狐 ドラえもんは？

王様 いない

狐 ウルトランマンは？

王様 いない

狐 つまんないの

少女 そういえば、宇宙船はどこにあるの？ 見たことないけど

王様 あっちにある

少女 あっち？

狐 どれ？

王様 見つからないと思うぞ

少女 どうして？

王様 木の形をしているからな

少女 木？

狐 何で？

王様 こんなところに宇宙船があったら目立ってしょうがないだろう

少女 それもそうだね

王様 木を隠すなら森の中だ

狐 ねえ

王様 何だ？

狐 王様はどこで何してるの？

王様 何をしているか？ 別に何も

狐 何も？

王様 昼間はここでお茶を飲んでポーっとして、夜になったら寝る

狐 それだけ？

王様 それだけだ

狐 どうして？

王様 人生、たまには何もしない時間も必要だぞ

狐 ……うん

少女 このテーブルとか、どうしたの？

王様 作った

少女 作ったの？

王様 日曜大工は好きだ

少女 王様、何しに来たの？

王様 邪魔者みたいに言うなよ

少女 でも、王様のこと何も知らない

王様 私だって君のことは何も知らない

少女 私は、高校生

王様 高校生？

少女 そう

王様 ははん、そうか、学生か。お前は何だ

狐 狐です

王様 狐？

狐 そうだよ

王様 本当に狐か？

少女 それはもういいから

王様 ははん、よろしい。では、私について色々聞かせてやろう。まず何を

少女 聞きたいことがいっぱいあったんだけど

王様 言ってみろ

少女 段々どうでもよくなってきた

王様 そんなこと言うなよ

狐 王様なんだよね？

王様 そうだ

狐 自分の国があるんだよね？

王様 そうだ

狐 放つといていいの？

王様 いいんだ

少女 いいの？

王様 私がいなくてもあの星は大丈夫だ。王様が一番偉い、それだけ分かっているばい

狐 ふーん

少女 どうして地球に来たの？

王様 燃料の補給に来たんだ

少女 燃料って？

王様 私の宇宙船は太陽の光を浴びると自動的にエネルギーを生成するようにできている

狐 光合成だね

王様 木の形をしているからな

少女 太陽高熱発電？

王様 そんなようなものだ

狐 ソーラーパワーだね

王様 エコだよ、エコ

少女 それってどのくらいかかるの？

王様 太陽の光の強さにもよるが、まだしばらくかかるだろう

狐 だから暇なの？

王様 そうだ

少女 そういうことか

王様 地球には用があったわけじゃなく、ちよつと寄つただけだ

少女 燃料の補給が終わったら、また女の人を捜しに行くの？

王様 そうだ

狐 女の人？

王様 私が捜している女がいるんだ

狐 どんな人？

王様 変な女だよ

少女 この前と言ってることが違うよ

王様 綺麗な女だったよ

狐 王様の恋人？

王様 いやあ、まだそんな関係じゃない

狐 じゃあどんな関係？

王様 彼女はある日突然私のところに現れて、お話をしてくれただ

少女 お話？

王様 変な話だったが、実におもしろかった。それから毎晩私のところへ来るようになったが、ある日突然いなくなった

狐 どうして？

王様 分からない。だから捜しているんだ

少女 見つけたら、どうするの？

王様 分からないよ。ただ、もう一度会いたいんだ

【4】 女

王様がいる。女（少女が演じる）登場。

女 ハロー

王様 ハロー。また来たな、女よ

女 また来たよ、王様

王様 今日はどんな話をしてくれるんだ？

女 どんな話がいい？

王様 そうだな、胸がスカツとする話がいいな

女 そうか。じゃあ何だかモヤモヤする話にしよう

王様 楽しみだ

女 桃太郎の話だよ。むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんが

王様 いまませんでした。終わり

女 終わり？

王様 終わりましたよ

女 いなかったのか？

王様 いなかった

女 いますよ

王様 仕方ないな。むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんがいた

王様 りいなかったりしました
何だそれは

女 もう高齢だから、ある日突然亡くなったたり

王様 亡くなったらダメだろう

女 ご老体に無理言ったらいけないよ

王様 そこを何とか

女 仕方ないな。むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんがいました。おじいさんが寝たきりなのをいいことに、おばあさんは毎日パチンコに行つて年金を食いつぶしていました
ちよつといいか？

王様 何？

女 真面目に話してるか？

王様 ううん

女 頼むから真面目に話してくれ

王様 仕方ないな。おじいさんつて普通何してる？

女 普通は山へ芝刈りに行くんじゃないか？

王様 芝つて何？

女 何だろう？

王様 柴犬？

女 いや、違つと思うが

王様 おじいさんは山へ柴犬を狩りに、おばあさんは川へ洗濯をしに行きました。
ねえ、洗濯機つてないの？

女 ない

王様 すると川の上流から大きな桃がどんぶらこ、どんぶらここと流れてきました。
どんぶらこつて何？

女 擬態語？

王様 おばあさんは桃を拾つて家に帰り、おじいさんと桃を食べました。終わり

女 終わり？

王様 おいしかったです

女 ええ、終わり？

王様 どうしたの？

女 桃太郎、出てきてないよ

王様 モヤモヤする？

王様 モヤモヤする

女 じゃあ続きはまた明日ね

王様 楽しみだ

女 おやすみ

王様 おやすみ

【5】 昼

王様 少女、狐がいる。

少女 変な人

狐 うん、変だね

王様 そうだよ、変だよ

少女 何その話？

王様 おもしろいんだよ

少女 まあ、おもしろいと言えはおもしろいけど
だろ？

王様 何で王様のところに来たの？ その人

狐 それが分からないんだ

王様 不思議な話だね

少女 とにかく私はもう一度彼女に会うために旅をしている
でも、その人、どこにいるの？

狐 分からない

王様 見つかるの？

少女 そのうち見つかるさ。見つからなければ諦めるだけだ

王様 それでいいの？

少女 人生とはそういうものだろう

狐 よく分からない

王様 手がかりとかないの？ それじゃいつまでたつても見つからないよ

少女 もちろん無闇に捜しているわけじゃない。ある程度の予想はついてる

狐 どうな？

王様 わが国の古い文献を調べたら、百年くらいの周期で彼女らしき人物が訪れ

た記録がある

少女 どういうこと？

彼女が宇宙を旅する存在なんだ。宇宙をぐるぐる回って、そして一定の周期で私の星を訪れる

少女 え？ それって

彼女は彗星なんだ。私はその彗星を追いかけている

少女 彗星

じゃあ待つてれば戻って来るんじゃないの？

王様 私は百年も待つてられない

少女 何とか連絡取れないの？ そういう機械とかないの？

王様 そうだよ。携帯電話とかないの？

少女 そんなに遠くまで電波を飛ばす技術はないな

王様 テレパシー、届かないかな

少女 テレパシー？

王様はテレパシーが使えるんだよ

少女 本当？

でも触つてないとダメなんだ

少女 どうやるの？

王様 手を出してごらん

少女 とう？

王様、狐の手を握る。

狐 「バカ」って言われた

王様 これがテレパシーだ

狐 「バカ」って言われた

少女 触つて熱を伝えるんだって

王様 バカって言う方がバカなんだぞ

狐 黙れバカ

少女 コーン

これだと触つてないとダメでしょ？ 離れた相手にテレパシー送れない

王様 の？ 送れる、かもしれない

少女 本当？

王様 古い文献で読んだことがある。本当のテレパシーは心臓の鼓動を伝えるんだ

狐 心臓？

王様 前にも言った通り、伝えるのは振動と熱だ。心臓は体の中で一番強い振動と熱を持っている

狐 うん

王様 心臓の鼓動に自分の気持ちを乗せれば、どんな離れた相手にも思いを伝えることができる

狐 本当？

狐、やってみる。

狐 聞こえた？

王様 聞こえない

狐 もう一回やってみる

狐、「バカ」と叫ぶ。

狐 聞こえた？

王様 聞こえた

狐 やった

少女 今のは喋っただけだよ

狐 うん

少女 テレパシーじゃないよね

狐 うん

王様 バカめ

狐 うるさいバカ

王様 と、まあこんなことが本当に行けるとは思えない。ただの迷信だ

少女 何だ

狐 使えない奴

王様 うるさい、食うぞ 嫌だ

少女 テレパシー、使えたらいいね
狐 え？

少女 どんなに離れてても会話ができて、気持ちが通じ合ってるみたいでいいよね

王様 そうだな

少女 その人、今どのあたりにいるんだろう？

狐 追いつけるの？

王様 追いつくさ。でも急がなきゃな

【6】

夕方

王様と狐が遊んでいる。

王様 来ないな

狐 うん、来ないね

王様 少女は、今日はどうしたんだ？

狐 学校行くて言ってたよ

王様 学校か

狐 夕方には来るって言ってたと思うけど

王様 少女が来ないとつまらないな

狐 そうだね

少女登場

少女 ハロー。お待たせ

狐 ハロー

王様 ハロー。遅かったな

少女 学校行ってたんだもん。仕方ないよ

王様 よし、全員揃ったな。お茶にしよう

少女 そうだね

三人、お茶の用意をする。

少女 ねえ、これって何の会？

王様 何でもないよ

狐 暇だからね

少女 まあ、楽しいからいいけどね。いただきます

三人、お茶を飲む。

少女 王様、宇宙船のエネルギーは溜まった？

王様 もう少しだ

少女 じゃあもう少しでお別れだね

王様 そうだな

少女 寂しい？

王様 そうだな

少女 どうしたの？ 元氣ないよ？

王様 そんなことはないぞ

狐 何か変なものでも食べたの？

王様 お前を食ってやろうか

狐 やめてよ

少女 出発するときは教えてね

王様 ああ

少女 お別れパーティーやろうね

王様 そうだな

【7】

夕方

王様と狐が遊んでいる。

王様 遅いな

狐 そうだね

王様 いつもならもう来ていい頃だが

狐 何か用事でもあるんじゃない？

王様 そうか
狐 気になるの？

王様 そんなことはないぞ

狐 ソワソワしてるよ

王様 そんなことはないぞ

狐 してるよ

王様 してない

狐 してる

王様 これは、その、ムラムラしてるだけだ

間。

王様 すまん、今のは私が悪かった

狐 いや、気にしてないからいいよ

間。

狐 宇宙船のエネルギー、溜まったんでしょ？

王様 ああ

狐 行かなきゃいけないんでしょ？

王様 ああ

狐 自分の星にも帰らなきゃいけないよね？

王様 ああ

狐 ねえ、ここにいなよ

王様 ここに？

狐 僕、王様といると楽しいよ

王様 そうか

狐 あの子もきつとそうだよ

王様 そうか

狐 王様はどうしたいの？

王様 ここにいるのも悪くない。でも行かなきゃならん

狐 あの子はどうするの？

王様 どうするとはどういうことだ？

狐 僕、王様とあの子が一緒にいるのを見ると、何だか嬉しくなるんだ

王様 そうか

狐 だから、もう少しでいいからここにいてよ

王様 明日出発する

狐 明日？

王様 約束したんだ。会いに行くって

狐 そっか。じゃあお別れパーティーしないとね

王様 いや、少女には言わないでおこう

狐 どうして？

王様 お別れは寂しいだろ？

狐 そうだね

間。

狐 明日、見送りに来るよ。いいよね？

王様 ああ。ありがとう

【8】 女

王様がいる。女（少女が演じる）登場

女 ハロー

王様 ハロー。待っていたぞ

女 そう。ありがとう

王様 さあ、お話を聞かせてくれ

女 ごめん、今日はダメなの

王様 どうした？ 具合でも悪いのか？

女 そうじゃない

王様 じゃあどうして？

女 お別れを言いに来たの

王様 お別れ？

女 もう行かなきゃ

王様 待て。随分急じゃないか
 女 本当は前から決まってたんだ。ずっと言っていなかったけど
 王様 お話はもう聞けないのか？
 女 ごめんね
 王様 話が中途半端なままじゃないか。桃太郎はどうなるんだ？
 女 ごめん
 王様 どこへ行くんだ
 女 私は宇宙を旅してるの。ここへはちょっと寄っただけ
 王様 もう来ないのか
 女 また来るよ。でもそれはずっと先の話。王様 待ってられないよ
 王様 待ってる。話の続きを聞かせてくれ
 女 もうダメだよ
 王様 どうしてもか？
 女 どうしても
 間。

女 さよなら
 王様 私も連れていってくれ
 女 連れて行く？
 王様 そうだ
 女 そんなことできない
 王様 分かった。じゃあ私から会いに行こう
 女 え？
 王様 すぐには無理だが、宇宙船を作る。そしたら会いに行ける
 女 私はずっと遠くへ行くんだよ？
 王様 構わない
 女 困ったな
 王様 約束だ。必ず会いに行く
 女 分かった。待ってる

【9】 夕方

狐がいる。少女登場

少女 ハロー
 狐 ハロー
 少女 王様は？
 狐 いないよ？
 少女 どこか行ったの？
 狐 もういないんだ
 少女 どういうこと？
 狐 行っちゃった
 少女 行っちゃったって、本当に？
 狐 うん
 少女 どうして？
 狐 もう行かなきゃいけないって
 少女 でも、何も言わないで？
 狐 お別れは寂しいからって
 少女 でも、そんなのひどいよ

間。

少女 何も言わないで行っちゃう方が寂しいと思わない？
 狐 そうかもしれないね
 少女 王様、何か言ってた？
 狐 君によろしくって
 少女 それだけ？ お別れパーティーしようって言ったのに
 狐 ごめん
 少女 君が謝らなくてもいいよ
 狐 でも
 少女 あーあ、何か拍子抜け。何だったんだろうね？ あの人は
 狐 僕は楽しかったよ
 少女 私だって楽しかったよ。そりや、最初に会ったときはメロンパン食べられ

て怒ったけど、すぐに仲良くなったし。ちよつと変わってて、自分中心で、生意気で、偉そうで、でも憎めなくて

僕、王様のこと好きだよ

私も好きだよ

一緒に行きたかった？

考えたこともなかった。そういう手もあったね

追いかけたら？

宇宙船がないよ

作つたらいい

私にはちよつと無理かな

そうだね

王様、あの女の人を追いかけていったの？

うん

もうちよつと私のことも気にかけてくれたらいいのに

あの人、そんな器用なことできないよ

そうだね。何か腹立ってきた。テレパシー使えないかな？

テレパシー？

王様の言つてたやつ。どんなに離れてても声が届くの。言いたいことが今

すぐ言えるの

どんなこと言いたいのか？

バカヤローって

聞こえるかな？

心臓の鼓動を届けるんだよ。ハロー、王様、聞こえますか？

ハロー、聞こえますか？

ハロー

私、聞きたいこといっぱいあったよ。言いたいこともいっぱいあるよ。帰

るときは挨拶ぐらいしていい。ねえ、また会いに来てくれる？ 会いに来て

てね、約束だからね。ハロー、聞こえる？ 聞こえたら返事しろ、バカヤ

ロー。ハロー

終わり。